

ブータンにおける学校教育の歴史的変遷

— 学校教育 100 年史 —

平山 雄大

早稲田大学教育・総合科学学術院 教育総合研究所

1. 黎明期（1910年代～）

- ・ 少数精鋭のエリート教育
- ・ 「ハの学校」：カリンポンに留学した男子に、夏に補講を行う場
- ・ 「ブムタンの学校」：王族の季節移動に伴って場所を変える移動式の学校



「ハの学校」第1期生 = カリンポンに留学した男子
出所)Kuensel (2014/01/25)



「ブムタンの学校」第1期生

出所)Royal Geographical Society Picture Library <http://images.rgs.org/>

2. 草創期（1940年代～）

- ・ 一般に開かれた学校教育
- ・ ネパール人移住者の学校

1940年代後半～、南部地域、地域住民主導、小規模の私立学校

教授言語＝ヒンディー語・ネパール語、教員＝インド人・ネパール人

- ・ ブータン人の学校

1950年代前半～、全土、地方行政官主導、比較的大規模の公立学校

教授言語＝基本的にヒンディー語・一部英語、教員＝ブータン人



1958年に中尾佐助が訪れた学校(チャプチャ、パロ、ハ、ワンデュ・ポダン)

出所)大阪府立大学学術情報センター中尾佐助スライドデータベース <http://nakao-db.center.osakafu-u.ac.jp/>

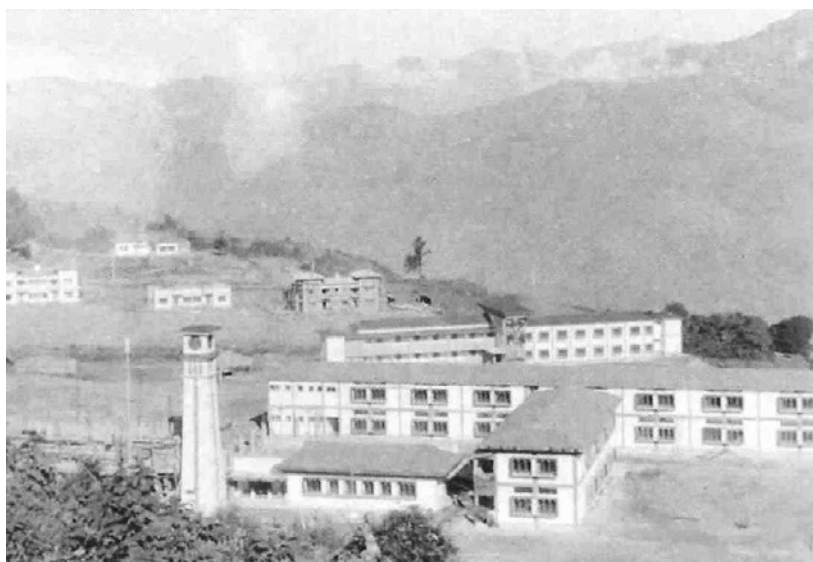
3. 拡充期①（1960年代～）

- ・ 5ヵ年計画（1961年～）に沿った教育開発
「国王をはじめ政府首脳に対する熱意と実行力は並々ならぬものがあり、他の開発途上国に比べてむしろ特異と感じられるほどであった」¹
- ・ 教授言語を英語に変更
「インドをはじめとした諸外国で医学や工学等の教育を受ける際に最も都合の良い言語」²
- ・ 国内での人材育成に向けた各学校の整備
パブリック・スクール、教員養成校、技術学校…



1962年に東郷文彦が訪れた学校（パロ、ハ）

出所）東郷文彦（1965）『ヒマラヤの王国 ブータン』鹿島研究所出版会、40・77頁。



1968年に設立されたカンルン・パブリック・スクール（後のシェラブツェ・カレッジ）

出所）Solverson, Henry（1995）*The Jesuit and the Dragon: The Life of Father William Mackay in the Himalayan Kingdom of Bhutan*, Montreal: Robert Davies Publishing.

¹ 桑原武夫編（1978）『ブータン横断紀行』講談社、87頁。

² Royal Government of Bhutan (RGoB) (1966) *Second Five Year Plan*, Thimphu: RGoB, p.23.

4. 拡充期②（1980年代～）

- ・ ナショナル・アイデンティティの保護・促進 ⇒ 独自性模索
「国の豊かな文化的・精神的遺産を保護・促進する。また、教育を受けた人々がこれらの遺産から疎外されるのを防ぐ」³
「生徒の中に道徳的価値及び愛国心を育み、三宝（仏・法・僧）の規範（Driglam Choesum）を遵守し、国王と国家に奉仕するブータン市民を育成する」⁴
- ・ 教育のブータン化 = インド式の教育からの脱却
「環境教育」、「価値教育」、「GNH 教育」…



³ Planning Commission, RGoB (1981) *Fifth Five Year Plan 1981-1987 Main Document*, Thimphu: RGoB, p.98.

⁴ Planning Commission, RGoB (1987) *Sixth Five Year Plan 1987-92*, Thimphu: RGoB, p.23.